第2次柏市健康増進計画　取り組み事業　進捗管理表

参考資料1

基本目標　①健康寿命の延伸　②生活の質（QOL）の向上

重点分野 / 目標	事業番号	事業名	所管課
重点分野1　栄養・食生活			
（1）適正体重を維持するための知識の普及 1 BMIが18.5以上25.0未満の人の増加 2 BMIが21.5未満の65歳以上の人の減少 3 小学生・中学生における肥満（標準体重＋20%以上）の減少	1	フレイル予防事業（栄養・食生活）	地域包括支援課
	2	給食施設指導事業	総務企画課
	3	健康づくり普及啓発事業（栄養・食生活）	健康増進課・学校給食課
	4	柏市立保育園の給食提供	保育運営課
	5	学校給食提供事業	学校給食課
（2）朝食や野菜摂取を意識した，バランスのよい食生活の普及 4 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の増加・維持 5 朝食の欠食率の減少 6 野菜料理を1日に5皿（350g）以上食べている人の増加 7 果物を1日に200g以上食べている人の増加	6	【再掲】給食施設指導事業	総務企画課
	7	栄養改善事業	総務企画課
	8	母子保健食育	母子保健課
	9	柏市立保育園における食育	保育運営課
	10	地産地消推進事業	農政課
	11	学校における食育事業	学校給食課
（3）栄養・食生活に取り組みやすい環境づくり 8 自分以外との食事の機会がある人の増加（毎日＋週何度か） 9 日常の買い物に不便を感じることがない人の増加	12	買い物困難者への支援	高齢者支援課
	13	公共交通空白不便地域へのコミュニティ交通運行	交通政策課
重点分野2　身体活動・運動			
（1）運動習慣の定着 10 運動習慣者（1回30分以上の運動を1週間に1日以上行い，かつ1年以上継続）の増加 11 日常生活で目標歩数以上を歩く人の増加 12 学校の体育の授業以外で，1日に30分以上運動している児童生徒の増加	14	各種スポーツ教室の開催	スポーツ課
	15	スポーツ推進委員活動	スポーツ課
	16	フレイル予防事業（身体活動・運動）	地域包括支援課
	17	かしわ健康アプリ「ワニFit」	健康増進課
	18	健康づくり普及啓発事業（身体活動・運動）	健康増進課
	19	保健事業利用費助成事業（運動事業）	健康増進課
	20	健康遊具の利用促進	公園緑地課
	21	「新体力テスト」の実施	指導課
	22	「小学校体育授業サポート事業」	指導課
	23	「運動部活動指導者派遣事業」	指導課
（2）身体活動・運動に取り組みやすい環境づくり 13 利用しやすい運動場所が多くある地域だと回答した人の増加 14 歩いたり，自転車に乗ったりする機会がよくある地域だと回答した人の増加	24	学校体育施設の開放事業	スポーツ課
	25	【再掲】健康遊具の利用促進	公園緑地課
	26	シェアサイクル事業	交通政策課
重点分野3　睡眠・休養・こころの健康			
（1）睡眠・休養・こころの健康に関する知識の普及 15 睡眠で休養がとれている（十分とれている）人の増加 16 睡眠時間が6～9時間（60歳以上については6～8時間）の人の増加	27	フレイル予防事業（こころの健康）	地域包括支援課
	28	健康づくり普及啓発事業（こころの健康）	健康増進課
	29	こころの健康に関する普及啓発	保健予防課
（2）睡眠・休養・こころの健康に取り組みやすい環境づくり 17 本当に困ったときや悩みがあるとき，相談できる人がいる人の増加 18 地域の人々がお互い助け合っていると思う人の増加 19 社会活動に参加している人の増加 20 孤独を感じている人の減少	30	老人福祉センターの管理運営	高齢者支援課
	31	こころの健康相談	保健予防課
	32	ブックスタート事業	子育て支援課
	33	地域子育て支援拠点事業	子育て支援課・保育運営課
	34	妊娠届出受理と母子健康手帳交付事業（睡眠・休養・こころ）	母子保健課
	35	乳児家庭全戸訪問事業	母子保健課
	36	1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査（睡眠・休養・こころ）	母子保健課
	37	産後ケア事業	母子保健課
	38	生涯学習推進事業の地域展開・生涯学習事業自主活動・地域活動支援講座	生涯学習課・中央公民館
	39	不登校児童生徒の支援事業	児童生徒課
（3）自殺予防対策 21 自殺死亡者の減少	40	自殺予防の大切さの啓発と周知	福祉政策課

第2次柏市健康増進計画　取り組み事業　進捗管理表

参考資料1

重点分野4　飲酒・喫煙			
	(1) 過度の飲酒が及ぼす健康影響及び適度な飲酒に関する知識の普及 22 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の減少		
	41	健康づくり普及啓発事業(飲酒)	健康増進課
	42	アルコール健康障害対策事業	保健予防課
	43	妊娠届出受理と母子健康手帳交付事業(飲酒)	母子保健課
	(2) 喫煙・受動喫煙が及ぼす健康影響に関する知識の普及 23 20歳以上の喫煙者の減少		
	44	たばこ対策推進事業	健康増進課
	45	健康づくり普及啓発事業(喫煙)	健康増進課
	(3) 喫煙の健康づくりに取り組みやすい環境づくり 24 受動喫煙の機会があった人の減少		
	46	受動喫煙対策推進事業	健康増進課
	47	ぽい捨て等防止事業	環境サービス課
重点分野5　歯と口の健康			
	(1) 歯・口腔の健康づくりに関する知識の普及 25 咀しゃく良好者の増加		
	48	フレイル予防事業(歯と口の健康)	地域包括支援課
	49	訪問口腔衛生指導事業補助金	地域医療推進課
	50	健康づくり普及啓発事業(歯と口の健康)	健康増進課
	(2) 定期的な歯科健康診査の受診 26 過去1年間に歯科健診を受診した人の増加		
	51	歯周病検診事業	健康増進課
	52	特殊歯科診療事業支援事業	地域医療推進課
	53	母子歯科保健	母子保健課
	(3) 歯・口腔の健康づくりのための環境づくり 27 かかりつけ歯科医を有する人の増加		
	54	健康かむかむ補助金事業	健康増進課
	55	【再掲】母子歯科保健	母子保健課
重点分野6　発症予防・健診・重症化予防			
	(1) がんの発症を防ぐための生活習慣等に関する知識の普及 28 75歳未満のがんによる死亡者の減少		
	56	予防接種事業(HPVワクチン, B型肝炎ワクチン)	健康増進課
	57	特定保健指導	健康増進課
	58	健康づくり普及啓発事業(重症化予防)	健康増進課
	(2) 定期的な健康診断・がん検診の受診 29 過去1年間に健診等を受診した人の増加 30 肺がん検診の受診者の増加 31 胃がん検診の受診者の増加 32 大腸がん検診の受診者の増加		
	59	がん検診事業(発症予防・健診・重症化予防)	健康増進課
	60	特定健康診査	健康増進課
	61	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業(発症予防・健診・重症化予防)	健康増進課
	(3) 若い世代からの糖尿病の発症予防と重症化予防 33 糖尿病の指摘を受けたが放置している人の減少 34 糖尿病性腎症の年間新規透析導入患者数の減少		
	62	プレ特定健康診査	健康増進課
	63	糖尿病性腎症重症化予防プログラム	健康増進課
	(4) 若い世代からの生活習慣病の発症予防と重症化予防 35 脳卒中の指摘を受けた人の減少 36 心筋梗塞・狭心症の指摘を受けた人の減少(60歳～74歳) 37 高血圧症の指摘を受けたが放置している人の減少 38 脂質異常症の指摘を受けたが放置している人の減少 39 COPD(慢性閉塞性肺疾患)による死亡者の減少		
	64	重症化予防事業	健康増進課
	65	プレコンセプションケア推進事業(発症予防・健診・重症化予防)	母子保健課
	(5) 発症予防・健診・重症化予防のための環境づくり 40 かかりつけ医を有する人の増加 41 かかりつけ薬局を有する人の増加		
	66	地域・職域連携推進事業	健康増進課
	67	【再掲】プレコンセプションケア推進事業(発症予防・健診・重症化予防)	母子保健課
	68	1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査(発症予防・健診・重症化予防)	母子保健課
重点分野7　女性の健康			
	42 BMIが18.5未満の女性の減少 43 子宮頸がん検診の受診者の増加 44 乳がん検診の受診者の増加 45 骨粗しょう症検診の増加 46 妊婦の喫煙者の減少 47 妊婦の飲酒者の減少 48 再掲 BMIが21.5未満の65歳以上の女性の減少 49 再掲 女性の運動習慣者の増加 50 再掲 日常生活で目標歩数以上を歩く女性の増加 51 再掲 睡眠で休養が取れている(十分とれている)女性の増加 52 再掲 睡眠時間が6～9時間(60歳以上については6～8時間)の女性の増加 53 再掲 本当に困ったときや悩みがあるとき, 相談できる人がいる女性の増加 54 再掲 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している女性の増加 55 再掲 過去1年間に健診等を受診した女性の増加		
	69	がん検診事業(女性)	健康増進課
	70	新たなステージに入ったがん検診の総合支援事業(女性)	健康増進課
	71	骨粗しょう症検査	健康増進課
	72	プレコンセプションケア推進事業(女性)	母子保健課

重点分野１　栄養・食生活

事業名	1	フレイル予防事業(栄養・食生活)	所管課	地域包括支援課
内容	主に高齢者に対するフレイル（介護予防）事業のうち，栄養をテーマとしたプログラムについて，管理栄養士等が講座を行う。またフレイルハイリスク者へ個別支援を行う。			
期待する効果	高齢期の必要な栄養に関する周知により，低栄養を防ぎ，フレイルを予防する			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	認定栄養ケア・ステーション柏市連絡協議会，地域包括支援センターなど	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
				△	○

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① フレイル予防・健康づくり出前講座参加者数	↑	176人	255人	363人	
	② 地域包括支援センター主催の教室参加者数	↑	56人	195人	211人	
	③ フレイルハイリスク者への個別支援件数	↓	22件	29件	21件	

評価	令和７年度はサロンなどの活動が活発化したことから，フレイル予防出前講座や地域包括支援センター主催の教室開催や参加者数が増加した。フレイルチェック等からのハイリスク者個別支援数は減少したが，支援対象者の早期把握や継続的なフォローにより，自身の心身の変化への気づきや予防行動の定着につなげることができた。 令和８年度も同様に，各地域でフレイルチェックや出前講座，地域包括支援センター主催事業を実施し，市民の意識・行動変容（栄養の改善）につながるよう働きかけていく。
今後の方向性	今後もフレイル予防の中での「栄養」をテーマとして講座を継続的に開催していく。 ハイリスク者への集団支援（フレイルチェックや講座），個別支援を継続する。

事業名	2	給食施設指導事業	所管課	総務企画課
内容	①個別指導（各施設を個別に巡回し，現地指導を実施。電話，来所による相談） ②集団指導（テーマに応じ職種別，施設種類別に研修会を開催） ③調査報告（各給食施設の運営・栄養管理状況を把握するため年２回調査実施）			
期待する効果	・適切な栄養管理を行う給食施設の増加 ・啓発媒体活用増加			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	他課（学校給食課・保育運営課） 柏市保健所管内集団給食研究会	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○	○	△

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 給食施設指導件数（個別巡回）	－	80件	87件	78件	
	② 「肥満及びやせに該当する者の割合」を把握している給食施設の割合	↑	85.4%	86.5%	77.80%	
	③					

評価	健康増進法18条に基づき，令和４～６年度に引き続き，令和７～９年度の３年間で全施設を巡回する計画に沿って個別巡回を行っている。適切な栄養管理が実施されている施設を増やすため，特に食事の提供エネルギー量の評価にあたっては，肥満及びやせに該当する者の割合を確認し，増加傾向にある施設や該当者が多い施設へ改善対策の指導・助言を行なった。しかし，②の実績値が前年度から減少しているため，追加の働きかけが必要であると考えられる。
今後の方向性	個別巡回の対象となる給食施設に対しては，適切な栄養管理のためにPDCAサイクルを用いて助言し，献立作成や栄養教育に反映できるよう働きかける。併せて，啓発媒体を配布する等，適正体重を維持するための知識の普及に努めていく。また，給食施設従事者研修会においても「肥満及びやせに該当する者の割合」を把握がアセスメントのひとつであることを伝える。

重点分野１　栄養・食生活

事業名	3	健康づくり普及啓発事業(栄養・食生活)	所管課	健康増進課・学校給食課
内容	・イベント,健康教育の中で栄養・食生活に関する啓発を実施。依頼の健康教育の実施。 ・野菜が入ったメニューの提供，健康情報の発信等に協力できる柏市内の飲食店等を「野菜を食べよう柏協力店」に認定。市はこの店舗の増加及び市民へ周知を行い，店舗の利用促進と合わせ，野菜摂取の増加に向けた啓発を行う。 ・柏市民健康づくり推進員による野菜摂取度測定（ベジミル）の実施			
期待する効果	・正しい食生活の知識の普及 ・地域の関係団体等の社会資源を活用及び野菜摂取の促進			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	市内小中学校，柏市保健所管内調理師会，野菜を食べよう協力店，柏市民健康づくり推進員連絡協議会，沼南支所，図書館		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期：○ 高齢期：○

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 啓発実施者数（栄養・食生活）（小中学校含む）	↑	520人	1,194人（小学校６校）	819人（小5校・中１校）	1,000人
	② 「野菜を食べよう柏協力店」の増加	↑	57	55	51	55
	③ 野菜摂取度測定者数（延べ）	↑	―	―	1,868人	2,000人

評価	・図書館や沼南支所ロビー，柏市民健康づくり推進員による文化祭にて，電子レンジで調理できるレシピ等の配布や野菜摂取に関する啓発を行った。地域団体や企業へ依頼の健康教育・出張出前講座を計５回実施。また，野菜摂取度測定・骨健康度測定を活用することで，自身の栄養状態を知るきっかけを作ることができた。生活に取り入れることができるような働きかけが必要。 ・食品衛生協会の講習会，柏市ホームページ等において，「野菜を食べよう柏協力店」の周知を図ったが，店舗の閉業により登録店舗数は減少傾向。今後は「野菜を食べよう柏協力店」について市民にさらなる周知を行い，店舗の利用促進及び野菜摂取増加につなげる必要がある。
今後の方向性	・「野菜を食べよう柏協力店」に関するチラシを一新し，取組の理解と，協力店の利用促進に向けた取組と合わせて，野菜摂取増加に向けた効果的な周知・啓発を行う。 ・9月の健康増進月間にあわせた図書館及び沼南庁舎での企画展示における掲示を行う。 ・若い世代における野菜摂取の増加の取り組みとして，幼児健診とがん検診において野菜摂取度測定・骨健康度測定を実施し，栄養・食生活の意識向上を図る。 ・ワニFitと野菜を食べよう柏協力店の連携を図っていく。

事業名	4	柏市立保育園の給食提供	所管課	保育運営課
内容	こどもの発育・発達を支え，望ましい食習慣，生活習慣をつくるため，生きた教材となる給食を提供する。			
期待する効果	咀嚼や嚥下機能の発達に応じて食べ物に親しみながら興味や関心を持ち，食事から美味しく栄養を摂取できる。食具の使い方を含め，自分で食べる喜びを知り，人と食べることを楽しむ気持ちを持つことができる。			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	なし		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期： 高齢期：

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 生きた教材となる給食実施回数（公立保育園）	―	289	292	292	
	②					
	③					

評価	各家庭の食習慣や子どもの咀嚼機能に大きな差があり，極端な偏食傾向のある園児が増加しているように見受けられる。苦手なものも食べようとする意欲を持ち，好き嫌いなく食べることができるよう給食時間などにおける指導を継続しながら，安全安心なおいしい給食提供に努める。
今後の方向性	心身の成長や健康の保持増進に寄与できるよう，生きた教材となる給食提供を継続する。

重点分野１　栄養・食生活

事業名	5	学校給食提供事業	所管課	学校給食課
内容	食事量や適切な栄養バランスを自分の目で認識できる生きた教材となる給食を提供する			
期待する効果	心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理する能力を身につける			

関係課 関係機関 （民間企業含む）	学校教育課	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○		

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 生きた教材となる給食実施回数（小学校）	―	182	183	183	
	② 生きた教材となる給食実施回数（中学校）	―	179	182	182	
	③					

評価	給食の喫食状況には個人差があり，嫌いなものを残し好きなものはおかわりするなどといった現状である。苦手なものも食べようとする意欲を持ち，栄養バランスを考えて食べられるようになるよう給食時間における指導を継続し，見本となる給食の提供に努める。
今後の方向性	児童・生徒の心身の成長や健康の保持増進に寄与できるよう，生きた教材となる給食提供を継続する。

事業名	6	【再掲】給食施設指導事業	所管課	総務企画課
内容	①個別指導（各施設を個別に巡回し，現地指導を実施。電話，来所による相談） ②集団指導（テーマに応じ職種別，施設種類別に研修会を開催） ③調査報告（各給食施設の運営・栄養管理状況を把握するため年２回調査実施）			
期待する効果	・利用者に応じた食事提供をしている給食施設の増加 ・給食施設の食品構成における野菜，果物摂取量の増加 ・健康に配慮したヘルシーメニューの提供増加 ・啓発媒体活用の増加			

関係課 関係機関 （民間企業含む）	他課（学校給食課・保育運営課） 柏市保健所管内集団給食研究会	ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
			○	○	△

実績値 及び 次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① 給食施設指導件数（個別巡回）	－	80件	87件	78件	
	② 栄養成分の表示を行っている給食施設の割合	↑	96%	97.5%	97.10%	
	③ 管理栄養士・栄養士を配置している給食施設（※病院，介護老人保健施設を除く）の割合	↑	75%	75%	78%	

評価	健康増進法18条に基づき，令和４～６年度に引き続き，令和７～９年度の３年間で全施設を巡回する計画に沿って個別巡回を行っている。給食施設の利用者の健康維持増進のため，献立表の栄養成分表示の他，健康や栄養に関する情報提供を行い，知識の普及に努めるよう助言した。ほとんどの施設で栄養成分の表示がされている。
今後の方向性	引き続き，個別巡回での食品構成や野菜・果物の摂取量についての聞取りに力を入れ，必要に応じて助言する。各施設が適切な食事を提供すること，また栄養成分表示や栄養教育の実施により，健康に関する啓発をすることで，家庭での食事を見直すきっかけとする。 また，事業所給食においては，ヘルシーメニューの提供を促す。 そして，管理栄養士・栄養士の配置状況が未配置の施設においては，管理栄養士又は栄養士の配置が促進されるよう助言を行う。

重点分野１　栄養・食生活

事業名	7	栄養改善事業	所管課	総務企画課
内容	栄養関係団体育成（栄養・健康づくりを担う関係団体の育成） 講演会の企画（給食施設従事者研修会）			
期待する効果	・関係課，関係団体との連携により幅広い世代への啓発 ・利用者に応じた食事提供をしている給食施設の増加			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	柏市保健所管内調理師会 柏市保健所管内集団給食研究会		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期：○ 高齢期：△

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
①	研修会参加施設数（延べ数）	↑	157施設	138施設	139施設	
②						
③						

評価	令和７年度給食施設従事者研修会は，柏市保健所管内集団給食研究会と共催で「給食施設における災害時対応のポイント」をテーマに実施。あわせて情報交換会を行い，各給食施設における災害時の対応や備えについて確認，情報共有し，より良い対応に向けて見直す機会とした。令和６年度より参集型の研修会とし，グループワークを取り入れているが，参加者の約８割が満足と回答しており，リモートでは得られない気づきや助言，参考となることがあるとの声があった。
今後の方向性	引き続き，給食施設が抱える課題の傾向を把握し，それに基づき研修会のテーマを選定する等，研修会の企画・実施において関係部署や関係団体と連携していく。これにより，顔の見える関係づくりを促進するとともに，幅広い年代の方への効果的な啓発につなげる。また，より多くの方に参加してもらえるよう研修会の開催方法についても検討を進める。

事業名	8	母子保健食育	所管課	母子保健課
内容	＜ママパパサロン・栄養＞妊婦とそのパートナーを対象に，講話を通じた妊娠期の食生活支援を行う。 ＜離乳食相談会，幼児健康診査，地域食育活動＞ 乳幼児期の保護者を対象に，講話や栄養相談を通じた食生活支援を行う。			
期待する効果	「家族そろってバランスのとれた食事を規則正しくとる健康的な食習慣」を定着させ，健康づくりの意識付けをする。			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	子育て支援課		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期：○ 高齢期：

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
①	３歳児健康診査における主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が１日２回以上の人の割合（幼児健診問診票より）	増	79.1%	78.2%	77.9%	80.00%
②						
③						

評価	・３歳児健康診査における主食・主菜・副菜をそろえた食事が１日２回以上の人の割合は横ばい。 ・幼児健康診査で，栄養に課題のある児に対し健康的な食生活についての説明や助言を行った。また，保護者が適切な栄養の知識得られるよう，バランスの良い食事について，電子親子手帳やリーフレットを活用し啓発を行った。
今後の方向性	・各母子保健事業を通じ，栄養相談や啓発を実施する。 ・子育て支援施設と連携し，市民が身近な場所で栄養相談ができる場所を増やす。

事業名	9	柏市立保育園における食育	所管課	保育運営課
内容	乳幼児期からの適切な食事の取り方や望ましい食習慣の定着を目指し食育を行う。			
期待する効果	一例として保育園の給食レシピを市のホームページで紹介する取組みにより，バランスのよい，バリエーション豊富なメニューを家庭でも作ることができる。保育園の給食の話題をきっかけに子どもと食について話すきっかけとなり，バランスのよい食事をとる意識づけとなることが期待される。			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	なし		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期：○ 高齢期：

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	R５実績	R６実績	R７実績	R８指標
①	保育園の給食レシピ年間閲覧数	↑	1,650	1,504	2,074	
②						
③						

評価	保育園の給食への関心は高く，給食のサンプル掲示もとても参考になるという声も多い。また，給食のレシピがほしいという要望もあるため，レシピ配付コーナーを設けている保育園もある。ホームページに掲載することで，手軽に給食レシピの情報を入手することができるので，家庭での食事の参考になるものと考える。
今後の方向性	これまで配付してきたレシピの整理や新メニューのレシピを定期的にホームページで更新できるようにスケジュールを立てて発信する。 本ページへアクセスしやすい工夫を検討する。 この事業の成果をどのように評価するべきか検討していく。

事業名	10	地産地消推進事業	所管課	農政課
内容	道の駅しょうなんの整備や，地元農産物を活用したイベントの実施等，新鮮で安全安心な柏産農産物を身近に感じてもらえる取組みにより，地産地消を推進する。			
期待する効果	野菜・食への興味を持ってもらうことで，野菜摂取量の増加を図り，バランスの良い食生活につなげる。			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	アグリ・コミュニケーションかしわ委員会		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期：○ 青壮年期：○ 高齢期：○

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	R５実績	R６実績	R７実績	R８指標
①	アグリ・コミュニケーションかしわ委員会PR活動実績（PRイベント及び後援実施件数）	↑	9	8	8	
②	アグリ・コミュニケーションかしわ委員会パンフレット配布数	↑	7,750	14,665	8,224	
③						

評価	①R6，R7ともにイベント実施は5件，農業団体への後援件数が3件だった。 ②R6は市内小学校や近隣センターへの配付が多くあったが，R7は小学校からの依頼が少なかったため減となった。
今後の方向性	地場農産物を身近に感じることで，食への興味・関心につなげられるよう，引き続き，地産地消推進イベントの実施や，柏産農産物についての情報発信を行う。

重点分野１　栄養・食生活

事業名	11	学校における食育事業	所管課	学校給食課		
内容	柏市学校給食における食育方針に基づき，各校で食育を実施する					
期待する効果	食の大切さを学び，生きる力と豊かな人間性を育み，生涯にわたって心身ともに健康で心豊かな生活が送れるようになる					
関係課 関係機関 （民間企業含む）			ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
				○		
実績値 及び 次年度指標	項目		目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	①	全体計画を作成し，食育を実施している学校数	継続	63	63	63	
	②	食育月間（１１月）における地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数	↑	―	12.6	11.6	
	③						
評価	・市内全小中学校で，食に関する指導の全体計画を作成し，食育を実施している。令和７年度は，学校栄養士の食育研修において食に関する指導全体計画の作成のポイントについて学ぶ機械を設けた。 ・②の取組回数が前年度及び国や県の目標値（１２回以上）を下回った。令和８年度は目標を達成できるよう学校栄養士へ働きかけ，地場産物の給食への活用や給食時間・掲示物等で啓発し，児童・生徒の地場産物に対する理解度を高めていく。						
今後の方向性	・各校が自校の食に関する実態や課題を把握し，令和７年度の研修で学んだことを踏まえ重点目標や評価方法を明確にした全体計画を作成していく。また，校内だけでなく中学校区で課題等を共有し地域全体で推進していく。 ・地場産物に係る食に関する指導については各校での取り組みに加え，学校栄養士会の研修において作成している地場産物を使用した献立や資料等を，全校で活用することで底上げを図る。						

事業名	12	買い物困難者への支援	所管課	高齢者支援課		
内容	見守り活動を推進するとともに，買い物が不便な地域に，市と協定を締結した事業者による移動スーパーを運行します。					
期待する効果	買い物が不便な地域への支援と，見守り活動を推進する					
関係課 関係機関 （民間企業含む）	株式会社カスミ		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期	青壮年期	高齢期
				○	○	○
実績値 及び 次年度指標	項目		目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	①	協定を締結した事業者による移動スーパーの実施	－	実施	実施	実施	
	②						
	③						
評価	令和７年度も前年度に引き続き，株式会社カスミと連携し，販売場所等の最適化を図りながら移動スーパーの運行を継続した。						
今後の方向性	物販を通じた定期的な巡回により，地域の高齢者の見守りや孤立防止といったセーフティネット機能も含めていることから，引き続き民間事業者と連携し，買い物困難者の支援を行う。						

事業名	13	公共交通空白不便地域へのコミュニティ交通運行	所管課	交通政策課
内容	公共交通空白不便地域における移動手段の確保を目的として，市が主体となるコミュニティ交通「ワニバース（市役所ルート，南部ルート）やオンデマンド交通である「カシワニクル」を運行する。 また，地域が主体となるコミュニティ交通について，導入サポートの実施や，「買い物支援タクシー（とねっこタクシー，やよいタクシー）」や「柏ビレジコミュニティバス」の運行を補助する。			
期待する効果	・移動手段を持たない交通弱者の日常生活（買い物，通院等）における移動手段の確保 ・高齢者の外出機会の創出			
関係課 関係機関 （民間企業含む）	市主体：沼南タクシー，染谷交通，阪東自動車 地域主体：各町会，地域団体		ライフステージ	乳幼児期・学童期・思春期 / 青壮年期 / 高齢期
				○ / ○

実績値及び次年度指標	項目	目標増減	Ｒ５実績	Ｒ６実績	Ｒ７実績	Ｒ８指標
	① ワニバース（南部ルート）	↑	37,557人	47,982人	56,764人	
	② ワニバース（市役所ルート）	↑	13,833人	63,062人	74,465人	
	③ カシワニクル	↑	11,410人	12,441人	11,783人	

評価	・市主体のコミュニティ交通については，全体として利用者数は増加傾向にある。 ・地域主体のコミュニティ交通については，運行の目安となる必要利用者数を満たしており，利用が図られている。一方，公共交通空白不便地域への「コミュニティ交通導入の手引き」の配布や，希望のあった地域への説明等を通じて周知しているものの，浸透が浅い。
今後の方向性	・市主体のコミュニティ交通については，公共施設へのアクセス性向上や既存の公共交通で対応しきれない地域の移動手段確保のため，運行を継続する。また，ワニバース（南部ルート）について，需要調査等を踏まえた全体的なルート・ダイヤの見直しを検討する。 ・地域主体のコミュニティ交通については，公共交通空白不便地域の町会へ市内の先行事例の体験談など，導入過程をイメージしやすい資料の配布や，必要に応じて説明に出向き，住民に「コミュニティ交通導入の手引き」を広く認知してもらい，移動手段の困りごとを相談しやすい環境を整えていく。